

## 「北方圏学術情報センター年報」第5号の発刊に寄せて

北翔大学 学長 相内 眞子

「北方圏学術情報センター年報」第5号が発刊の運びとなりました。多数の研究成果が本誌に掲載され、公表のチャンスを得て、学内外で共有されることを、大変嬉しく、また喜ばしく思います。

「北翔大学北方圏学術情報センター」（以下通称のポルトと略）は、平成13年度文部科学省「私立大学学術研究高度化推進事業・学術フロンティア推進事業」の指定を受け、「北方圏住民のQOL（Quality of Life）の向上に関する総合的研究」をテーマに研究活動を開始いたしました。既に10年を超える継続的な研究活動の間に、上記テーマは、実に多様な広がりや深化を見せ、さらに、北翔大学の人間福祉学部、生涯学習システム学部それぞれ付設されていた「北翔大学人間福祉学部北方圏生活福祉研究所」、「北翔大学生涯学習研究所」の2研究所を統合して以降は、「北方圏生涯スポーツ研究センター」（通称スポル）と共に、本学の研究活動の文字通り「センター＝中心」を担ってまいりました。

「生活環境、地域福祉、心の健康、生涯学習としての芸術などの分野について総合的かつ学際的な視点から研究を行なう」とするポルト研究の目的は、「人をより豊かで幸福にする社会の実現」に他なりません。ポルト研究には、学内外から多数の方々に参加され、本年報はその研究成果の貴重な公表媒体になっています。本誌第5号にも、研究論文4編と研究報告8編が収録されておりますが、いずれも批評に耐えうる優れた内容を誇るものです。

研究論文4編は、人権問題を学習するにあたっての注意深いアプローチの開発、精神的安定のための睡眠の質研究、新宗教のもつ精神医学的側面の解明、また高齢者に適した衣服設計の試みなど、研究対象は多岐にわたりますが、これこそ、ポルト研究の裾野の広がりや示すものであり、同時に、いずれも社会に対する鋭い洞察と人間への深い関心と愛情に裏打ちされた研究であることから、ポルト研究の主題を深化させた成果といえるでしょう。

他方、研究報告も、精神保健福祉士の養成に関わる課題の提示、アートやデザインと時代性に関わる制作者自身の考察、心を病み傷ついた学生への支援に関わる調査研究、東日本大震災被災者を追ったルポ等々、執筆者の問題意識と、人に寄り添う温かな心情が伝わるものです。

本年報を通して、研究対象に対する愛情と敬意、アプローチにおける謙虚な姿勢が、ポルト研究の底流に息づいていることを確認でき、この成果を学内外にお届けできることを誇りに思います。この成果が、広く皆様に共有され、力となるよう祈念いたします。